

自蹊庵便り

令和五年 卯月

NO 161

〔茶事折々〕

昔、朝日新聞を購読していた頃、大岡誠氏の折々の歌というタイトルで季節折々の歌が載っていて、毎日それを見るのが楽しみで、そこから一日がスタートしたものです。

今、ふと今月のお便りをそろそろ仕上げなくては…と、ちらちら頭をよぎりつつ思

いますことは、八十路に入りて一層、一会一会の重みを感じてきており、季節と呼応しながらの折々の茶事模様、お一人一人の大切な時をお預かりしての一席一席にございます。故に、これからの便りには折々の茶事模様を書き留めることにしたいと…。折々の茶事、茶事折々、そう、茶事折々にしましょうか。

残生にて、あと何回茶事というものと向き合える日を賜うことができますことか、

神のみぞ知ることになりますが、残生とゆうもの、余生というものは無きと置いて、一会一会を迎えたく願っております。さすればこそその茶事模様、一段と心入れ深く折々を書き留めておく作業も案外に皆様のお役に立つこともあるやもしれず…と、そのような心境の変化に至り得た次第でございます。

今年に入り、すでに一月の初釜、二月の暁、三月の雛の茶事を終えました。

京都にて三日間、東金にて三日間、毎月六回の茶事をこなしているのですから、この三ヶ月で十八回、和歌山の暁を入れれば、二十回を終えていることになります。

順を追って云うならば、今年が奇数月が大徳寺にての茶事ですので、正月明け草々に一段と心を引き締めてのスタートにございました。搬入、搬出の手間を思えば、八

瀬の借家にて行えば少しの楽もでき、余裕も生まれるのでは…と、思いはするものの、昌道老師から頂戴したありがたい御縁もあり、やはり舞台が良ければ、場に恥じない心映え、気働きも程良い緊張感とともに大切なことかと…。そして何より搬入、搬出においては、道具を扱う力のつき方が違います。

茶入一つ、棗一つも正しく取り扱いができ、茶碗に至っては乾かぬうちに仕舞わなければならず、それを持ち帰ってすぐ箱から出して乾かすという作業、お人には見えぬ手間数の連続にございます。なればこそ力がつくというものの、繰り返しの鍛錬の贅沢さがそこにはあります。

そう、苦が苦でなくなりゆく行程、いえ、あえて道程と申しませうか。茶の湯の世界、この鍛錬の道程こそが贅沢な時

間であり、道なのだと思っております。

千葉から京都へ、京都から千葉へと荷を積み、運転し、また荷を降ろし、食材の残りを満足のいく口運びとなりますよう、体力分配の勝負処にございます。

諸々の煩雑な繰り返しにどれほどの意味があるかは判りませんが、兎にも角にも通いける人達がおられる限り、悔いのない働きをしたいものです。

二月の暁は京都は久々の大雪に見舞われ、庭の残雪も小高い山を残し、蹲踞の氷も厚く、そのような中での早朝五時の席入りにございました。

深夜二時半には眠る間のいかほどもなく、泊まり組は身繕いをして三時には台所、水屋とに分かれての作業、何といっても暁は水屋仕事の方々が大変であったと思いません。

夜、寝る前に埋み火にして、灰を温めておき、そして三時頃より改めて灰を整え、新しくおこした炭を入れ、手焙り、足許火

鉢、煙草盆等々、露地行灯に至るまで手間のいることにございます。

皆々良く働いてくれました。畳一つ焦がさず、蠟燭一つ倒す粗相もなく、何より露地の氷った石畳で足をすべらすこともなく、水の蒔きよう一つも暗闇での作業、なかなか、なかなかでございます。

誰一人怪我也粗相もなく終えることができ、たのも日頃の鍛錬のなせる業にございませう。

しかし乍ら、同じことを三日間続けるも同じ日は一つとしてなく、客方、水屋方、台所方一様の景色にあらずして、三身一体の茶事模様、よう様に調いつつあります。

皆様お一人お一人の努力の賜物、結晶の姿にございます。これらは決して私が育てたものではございません。皆様によって私が育てられ、そして皆様同士が手を携え、心を惜しみなく分かち合って育まれた尊い時間にあります。時間というものの尊さが身に染みます。

テレビ放映を見てくださってからの御縁の方々も八年から足かけ十年になろうとしています。

お一人お一人心身共に健やかさに恵まれ、背景にある御家族の御理解等々、条件が備わって始めて成り立つ連続にございませう。

一日を無事に過ごせることさえ、奇跡の上の賜りものですのに、七、八年、十年と心を寄せ合い、分かち合える恩恵に、只々頭を垂れるばかりにございます。

さあ！また新たなる学び人の集い、令和五年四月より月毎の茶事模様、どのような茶事模様と相成りますことか…。楽しみなことにございます。

そう！茶事は苦が楽になる楽しいお招きごとの一服にございます。

夜、寝る前に埋み火にして、灰を温めておき、そして三時頃より改めて灰を整え、新しくおこした炭を入れ、手焙り、足許火